



軍人(海軍中将)。松山城下(現、松山市)出身。幼名は淳五郎。陸軍大将の秋山好古は実兄である。東京大学予備門(現、東京大学)から海軍兵学校へ転じ、首席で卒業して少尉となった。明治26(1893)年、イギリスへ渡って巡洋艦「吉野」を回航、翌年、巡洋艦「筑紫」の航海士となり日清戦争に従軍した。明治30(1897)年、海外派遣士官としてアメリカに留学し、近代海軍戦術を究める一方、米西戦争を観戦して詳細に記録・分析した。帰国後は参謀職を経て海軍大学校の教官となり、体系的な海軍戦術教育を行った。

日露戦争の際には連合艦隊作戦参謀として参戦し、我が国の命運を決定する日本海海戦では、「天気晴朗なれども浪高し」の名文を打電し、意表をつく敵前逐次回頭(丁字戦法)により勝利に導いた。俳人の正岡子規は、愛媛県松山中学校(現、県立松山東高等学校)時代の同級生である。

略歴

慶応4(1868)年3月20日	松山城下の歩行町の秋山家の五男として生まれる。
明治12(1879)年	愛媛県松山中学校へ入学
明治17(1884)年	東京大学予備門に入校。正岡子規との下宿生活
明治19(1886)年	海軍兵学校に入校
明治23(1890)年	海軍兵学校を首席で卒業。少尉候補生となる。
明治26(1893)年	イギリスへ渡って巡洋艦「吉野」を回航する。
明治27(1894)年	日清戦争が起こる。巡洋艦「筑紫」の航海士として従軍
明治30(1897)年	海外派遣士官としてアメリカへ留学
明治35(1902)年	海軍大学校教官となる。
明治37(1904)年	日露戦争が起こる。連合艦隊作戦参謀として従軍
明治38(1905)年	日本海海戦でロシアのバルチック艦隊を連合艦隊が破る。
明治44(1911)年	第一艦隊参謀長に就任
大正3(1914)年	海軍少将に昇進。軍務局長となる。
大正5(1916)年	第一次世界大戦視察のため渡欧
大正6(1917)年12月	海軍中将に昇進。病気のため職務を持たないで待機
大正7(1918)年2月4日	51歳で永眠

(写真提供：松山市立子規記念博物館)

〈関連図書〉

- ・司馬遼太郎『坂の上の雲』 文藝春秋 1969年
- ・島田謹二『アメリカにおける秋山真之』 朝日新聞社 1975年
- ・生出寿『知将秋山真之』 光人社 1996年
- ・中村晃『日本海海戦の名参謀 秋山真之』 PHP研究所 1999年
- ・三野正洋『天気晴朗なれども浪高シ』 PHP研究所 1999年
- ・田中宏巳『人物叢書 秋山真之』 吉川弘文館 2004年
- ・坂の上の雲ミュージアム『子規と真之』 坂の上の雲ミュージアム 2007年
- ・三浦康之『蘇る秋山真之 上・下』 ウェッジ文庫 2008年
- ・木村勲『日本海海戦とメディア 秋山真之の神話批判』 講談社選書メチエ 2008年

〈主な収蔵資料〉…(P207・210~211, 55・68~71)

〈ゆかりのある場所〉…(P289, 102~103)

〈関連施設〉…秋山兄弟生誕地

〒790-0801 愛媛県松山市歩行町2-3-6 TEL: 089-943-2747

坂の上の雲ミュージアム

〒790-0001 愛媛県松山市一番町3丁目20番地 TEL: 089-915-2600